府立泉大津高等学校
校長　藤原　大

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

創立 80 年を超える歴史を持つ泉州地域の伝統校、普通科高校として、どんな社会でも揺るがない土台「心幹」を持ち、他者とコミュニケーションをとりながら、自分の人生を、社会を豊かにできる一人前を育成する。

１）他者とより良い関係を築きながら、責任を持って役割を果たす自律・自立できる「人間力」を育成する。

２）基礎となる幅広い教養を身につけ、日常場面で活用できる「教養力」を育成する。

３）自己と向き合い、他者と協働しながら、粘り強く課題解決を図ることができる「協働的探究力」を育成する。

２　中期的目標

１　確かな学力の定着と学びの深化

（１）「わかる授業」を土台に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりをめざす。

ア　IMPT（泉-OHTSU 学び充実 プロジェクトチーム）を中心に、「主体的・対話的で深い学びを育む授業」づくりの実践を進める。

イ　DX 推進事業を活用し、ICT を活用した授業実践を進めるとともに、１人１台端末の効果的な活用による授業実践を進め、組織的に個別最適な学びと協働的な学びの充実に努める。

（２）教科・探究・トータルキャリアプラン・学校行事等におけるカリキュラムマネジメントを推進し、「泉大津高校の『ねがい』」にある資質・能力（３つのキー・コンピテンシーと９つのターゲット）を育成する。

※　授業アンケートの平均点を令和９年度までに 3.25 以上にする。（R４:3.23、R５:3.23、R６:3.21）

※　学校教育自己診断（生徒）「１人１台端末を効果的に活用」の肯定的回答を令和９年度までに 85%以上にする。（R４:67%、R５:83%、R６:84%）

※　学校教育自己診断「「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動」の肯定的回答を令和９年度までに生徒 75%・教職員 95%以上にする。（R４:生徒 69%・教職員 82%、R５:生徒 70%・教職員 93%、R６:生徒 72%・教職員 92%）

２　「高い志」を育み、「将来の夢」を実現

３年間を見通した志学、キャリア教育、人権教育を連動させた生徒育成プログラム（＝トータルキャリアプラン）を実行する。

（１）「総合的な探究の時間」をコアカリキュラムとして、他者との繋がりの中で「人間力」「教養力」「協働的探究力」を育成する。

ア　生徒が自立心をもって自らの生き方を考え、アンテナを広く張って自ら問いを立てられる力をもち、課題を解決できる力を育成する。

イ　DX 推進事業を活用し、地域に根差し、地域課題の解決をめざす協働的・探究的な学びの充実に取り組む。

（２）進路目標を達成できる学力を３年間で育成する。

ア　基礎学力の定着、進路実現をめざし、学年・教科・分掌間の連携を図り、放課後や長期休業中の講習・補習を充実させ、生徒が根気よく試行錯誤しながら学びを深められるよう支援する。

（３）生徒一人ひとりが希望する進路を実現するための組織的・計画的な進路指導を充実させる。

ア　学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現を支援する。

イ　学年・教科・分掌間の連携を図り、面接指導、奨学金説明会等、希望する進路に応じた支援を充実させる。

※　学校教育自己診断（生徒）「総合的探究は協働的探究力を養うのに役立つ」肯定的回答を令和９年度までに 80%以上にする。（R４:72%、R５:69%、R６:72%）

※　学校教育自己診断（生徒）「探究や学校行事等で地域と交流している」を令和９年度までに 80%以上にする。（R４:56%、R５:58%、R６:70%）

※　学校教育自己診断（生徒）「進路情報肯定率」を令和９年度までに 87%以上にする。（R４:82%、R５:86%、R６:86%）

※　３年生４月当初の進学希望先調査を達成できた生徒の割合を令和９年度に 99%以上にする。（R４:98%、R５:97%、R６:99%）就職内定率 100%を維持する。

３　生徒の自己有用感と人権意識の向上

（１）生徒の規範意識を醸成させるとともに、個々の生徒への支援体制を充実させる。

ア　自主的に規律を守り、自律心をもって行動する人をめざし、基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

イ　全教員がカウンセリングマインドを持って生徒指導にあたる。

（２）特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが主体的に参加することで、生徒の自己有用感を高め、連帯意識や公共精神を培う。

ア　行事や生徒会活動、部活動、ボランティア活動等を通じて、集団の中で主体的に他者と協働する力を育む。

イ　１年次から行事等を主体的に企画・立案・運営するよう支援し、向上心や協調性を高めるとともに、言語活用能力（コミュニケーション力やプレゼンテーション力）を育成し、チームで解決する力の向上を図る。

（３）生徒の人権尊重の意識を向上させ、多様性を尊重し、思いやりをもって共生できる力を育成する。

ア　いじめ・差別をしないさせない意識の醸成と集団づくりに努める。

※　学校教育自己診断（生徒）「生徒指導への満足度」を令和９年度までに 70%以上とする。（R４:55%、R５:62%、R６:66%）

※　学校教育自己診断（生徒）「学校行事への満足度」を令和９年度までに 87%以上とする。（文化祭/体育祭　R４:74%/80%、R５:85%/86%、R６:78%/86%）

※　学校教育自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会」の肯定率を令和９年度までに 93%以上とする。（R４:92%、R５:90%、R６:92%）

４　安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上

（１）生徒が安全・安心に学校生活を過ごせる環境づくりを充実させる。

ア　教育相談体制の一層の充実にむけて、保護者や関係機関との連携を強化する。教育相談・支援委員会、支援教育コーディネーターを中心に、生徒一人ひとりへの支援とサポート体制を充実させる。

イ　保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進めるとともに、大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化を図る。

ウ　個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する。

※　学校教育自己診断（生徒）「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率を令和９年度までに 80%以上にする。（R４:78%、R５:78%、R６:78%）

※　学校教育自己診断（生徒・保護者）「教育相談への満足度」を令和９年度までに生徒 72%・保護者 86%以上にする。（生徒/保護者 R４:64%/85%、R５:70%/86%、R６:70%/83%）

（２）校内組織・教職員集団づくり、働き方改革に向けた取組みを推進する。

ア　学年主任間会議を活用し、生徒育成の教育課程の円滑な実施と内容の継承・充実につなげる。

イ　教職員が主体的に教育活動ができる学校現場づくりを推進し、誰もが学校運営に向けた建設的な改善策や新たな取組みを提案できる教職員集団となるよう取り組む。

ウ　教職員の新たな学びを育成する校内研修の充実と、校外研修への参加、校内共有を推進する。

エ　教職員の多忙化解消に向けた業務の精選と校務運営の効率化を進めるとともに、「チーム学校」で教育活動を行う。

※　学校教育自己診断（教員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」を令和９年度まで 75%以上にする。（R４:76%、R５:79%、 R６:69%）

※　学校教育自己診断（教員）「経験の少ない教職員の育成」の肯定率を令和９年度まで 85%以上を維持する。（R４:94%、R５:79%、R６:85%）

（３）「行きたい学校」となるよう、本校の教育活動を積極的に発信し、広報活動の充実を図る。

ア　HP や SNS を活用し、中学校、保護者、教育関係者向けの情報発信を充実させる。

イ　生徒体験型の中・高・大（専）等多様な主体との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする。

※　学校説明会参加者アンケートの肯定的評価（中学生）を令和９年度まで 90%以上にする。（R４:93%、R５:92%、R６:88%）

府立泉大津高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和　年　月実施分］	学校運営協議会からの意見

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R６年度値〕	自己評価
１ 確かな学力の定着と学びの深化	（１） 主体的･対話的で深い学びを育む授業づくり （２） 「泉大津高校の『ねがい』」にある資質･能力（３つのキー・コンピテンシーと９つのターゲット）を育成する	（１） ア・IMPT（泉-OHTSU 学び充実 プロジェクトチーム）を中心に、「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業実践にかかる研修を行い、授業改善やパフォーマンス課題の実践をチームとして進め、校内で情報共有するとともに、生徒の基礎学力の向上と定着に努める イ・DX 推進事業を活用し、ICT を活用した授業実践を進めるとともに、１人１台端末の効果的な活用による授業実践を進め、組織的に個別最適な学びと協働的な学びの充実に努める ・好事例や教材等をチームで共有し充実を図る （２） ア・生徒育成の教育課程（教科・探究の時間・トータルキャリアプラン・学校行事など）のカリキュラムマネジメントを推進する ・教職員すべてが「泉大津のねがい・ねらい」に向かう教育活動を行う ・資質・能力の育成において、教職員それぞれがPDCA サイクルを確立し、学校全体で取り組み、IMPT・探究委員会・学年で振り返りを行う	（１） ア・授業充実研修２回以上〔３回〕 ･授業アンケート平均3.23 以上〔3.21〕 ・研修の振り返りの共有 イ・自己診断（生徒）「１人１台端末の活用」85%以上〔84%〕 ・１人１台端末活用授業の公開授業を４回実施を維持する〔４回〕 ・地域連携ルームを活用した授業を 20 回以上行う〔新規〕 （２） ア・自己診断「泉大津高校の『ねがい』」に向かう教育活動を行っている。生徒 73%以上　教職員 93%以上〔生徒 72%　教職員 92%〕	（１）
２「高い志」を育み、「将来の夢」を実現	（１）「総合的な探究の時間」をコアカリキュラムとして、他者との繋がりの中で「人間力」「教養力」「協働的探究力」を育成する （２）進路目標を達成できる学力を３年間で育成する （３）生徒一人ひとりが希望する進路を実現する為の組織的･計画的な進路指導	（１） ア・「総合的な探究の時間」の内容を精査し、充実を図り、生徒の問いだて力、課題解決能力を育て、自らの夢を描き、実現する力を育む イ・泉大津市をはじめとした地域課題の解決をめざす協働的・探究的な学びの充実をめざし、DX 推進事業も活用し、近隣関係機関との連携と内容の充実を図る ・３年間で系統立った総合探究を推進するため、効果検証を行う （２） ア・放課後や長期休業中の講習・補習を学年全体で計画して充実を図り、生徒の参加を促す イ・大学入試を意識した外部検定試験の挑戦を促し、合格をサポートする　英検、漢検、数検の受験者を支援する （３） ア・トータルキャリアプランを通じて、学年ごとに適切な進路情報の提供を行い、生徒の進路実現の支援を行う イ・学年・教科・分掌間の連携を図り、講習や面接指導等、希望する進路に応じた支援の充実で進路の実現を図る	（１） ア・自己診断(生徒)「総合的探究が協働的探究力を養うのに役立つ」73%以上〔72%〕 イ・自己診断（生徒）「探究や行事等で地域と交流」75%以上〔70%〕 ・泉大津市からもご意見をいただき、探究委員会･学年主任間会議において検証する （２） ア・自己診断（生徒）「講習満足度」75%以上の維持〔76%〕 ・長期休業中講習参加者 20%以上〔７%〕 イ・模試や検定受検者への指導・支援の実施 （３） ア・自己診断（生徒）「進路情報」肯定 85%以上の維持〔86%〕 イ・３年４月段階の進路希望の実現 97%以上の維持〔99%〕、就職内定率 100%維持〔100%〕	

府立泉大津高等学校

3 生徒の自己有用感と人権意識の向上	（1）生徒の規範意識を醸成、個々の生徒への支援体制の充実 （2）特別活動や生徒会活動を通じて、生徒自らが主体的に参加することで、生徒の自己有用感を高め、連帯意識や公共精神を培う （3）生徒の人権尊重の意識を向上させ、多様性を尊重し、思いやりをもって共生できる力を育成する	（1） ア・身だしなみの意義を理解し、全校一致の目標を生徒と共有し、規範意識を醸成する ・問題行動等を生徒自らが考え、学校生活を落ちついた中で過ごせる支援を実施する ・自転車通学者のマナー指導での警察・外部と連携し体験的な交通安全講習会を実施する ・全生徒への「薬物乱用防止教室」の取組みを、外部と連携して実施する （2） ア・体育祭、文化祭を生徒会が主体的に運営できるよう支援するとともに、生徒全体が主体的に活動できる行事にする ・部活動加入率を上げ、楽しさを発信し、部活動の活性化を図る ・学習環境の大切さを生徒に伝え、生徒が自主的清掃活動に取り組むよう保健部が中心となって学校全体で取り組む ・さまざまなボランティア活動情報を提供し、参加生徒を募り参加させることで、自尊感情を高め、他者尊重の精神の涵養から社会に貢献できる人材育成を図る イ・１年次から行事等を主体的に企画・立案・運営するよう支援し、向上心や協調性を高めるとともに、言語活用能力（コミュニケーション力やプレゼンテーション力）を育成し、チームで解決する力の向上を図る ・成果を学年主任間会議において検証する ・生徒会・各クラス委員が連携し、教員とともに、「あいさつ運動」を推進し、コミュニケーション力をあげる （3） ア・いじめ・差別をしないさせない意識の醸成と集団づくりに向けて、人権学習を充実させる ・生徒の心に響く人権講演会を企画する イ・地域連携をとおして、多様性を理解し、尊重しながら、様々な人と共生できる力を身に着け、地域に貢献できる人材を育成する	（1） ア・年間遅刻件数 2000 件以下の維持〔1880 件〕 ・体験的交通安全講習会１回以上〔２回〕 ・「薬物乱用防止教室」の取組み実施１回以上〔１回〕 ・自己診断（生徒）「生徒指導への満足度」67%以上〔66%〕 （2） ア・自己診断(生徒)「生徒会活動は活発」70%以上の維持〔81%〕 ・自己診断(生徒)「行事の満足度」体育祭・文化祭 85%以上の維持〔78・88%〕 ・１年生の部活動加入率 50%以上〔43%〕 ・自己診断(教職員)「部活動の活性化について工夫」65%以上の維持〔69%〕 ・小・中学校との交流を５クラブ、15 回以上〔４クラブ、24 回〕 ・自己診断(生徒)「清掃活動を積極的に行う」80%以上〔79%〕 ・ボランティア参加生徒５事業、50 名以上の維持〔７事業、75 名〕 イ・自己診断（生徒）「高校に入ってからあいさつするようになった」を 80%以上の維持〔80%〕 （3） ア・自己診断（生徒）「人権を学ぶ機会ある」90%以上の維持〔92%〕 ・人権講演会１回以上〔１回〕 イ・自己診断（生徒）「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会ある」80%以上の維持〔80%〕	

４　安全・安心を土台にした総合的な学校力の向上	（1）生徒が安全･安心に学校生活を過ごせる環境づくりの充実 （2）校内組織・教職員集団づくり､働き方改革に向けた取組みの推進 （3）「行きたい学校」となるよう､本校の教育活動を積極的に発信し､広報活動の充実を図る	（1） ア・教育相談・支援委員会、支援教育コーディネーターを中心に、SC･SSW との相談体制を充実、定期的なケース会議を行い、保護者や福祉機関等と連携し、「チーム学校」で具体的な支援を行う ・カウンセリングマインドをもって生徒一人ひとりに寄り添い、支援とサポート体制を組織的に充実させる イ・保健・安全指導を徹底して、事故防止の取組みを進める ・熱中症、感染症、交通安全、薬物乱用、防災の指導の徹底と外部専門家との連携を図る ・大規模災害への備えと緊急事態発生時の迅速に対応できる校内体制の強化し、教職員に徹底するとともに、生徒にも周知徹底する ・安否確認等のために緊急掲示板ブログや E メッセージを活用し、緊急時の情報発信を迅速に行う ウ・個人情報の適正管理と個人情報保護の精神を徹底する （2） ア・学年主任間会議を活用し、生徒育成の教育課程の円滑な実施と内容の継承・充実につなげる イ・教職員が主体的に教育活動ができる学校現場づくりを推進し、誰もが学校運営に向けた建設的な改善策や新たな取組みを提案できる教職員集団づくりをより一層推進する ウ・教職員の新たな学びを育成する校内研修の充実と校外研修への参加を促進し、センター研修を軸にした研究授業と校内共有研修を実施する ・人権研修を充実させ、すべての教職員が、日々の教育活動における人権感覚を高め、より確かな人権意識を身につけて、教育活動を行い、いじめなどの人権侵害を許さない学校づくりに努める ・分掌や委員会等の業務において OJT を活用し、初任から 10 年めまでの育成体制を充実させる エ・教職員の多忙化解消に対応した分掌業務のスリム化を進める ・働き方改革としての分掌業務の精査を継続する ・教員の負担感の軽減、経験の少ない教員への支援を行い、働きやすい職場環境を整える ・学校運営協議会、PTA、同窓会、後援会等との連携を密にし、チーム学校で教育活動に取り組む （3） ア・HP の充実を図るとともに、SNS によるタイムリーな発信を行い、中学校、保護者、教育関係者向けに本校の魅力を発信する イ・体験型の中・高・大（専）等多様な主体との交流・連携を進め、本校の魅力を発信する場とする	（1） ア・自己診断（生徒）「気軽に相談に乗ってくれる」71%以上〔70%〕 ・自己診断（保護者）「保護者の相談に適切に対応」80%以上の維持〔83%〕 イ・指導に係る講習会等を１回以上維持〔３回〕 ・外部専門家活用３件以上〔６件〕 ・自己診断（生徒）「事件・災害発生時の行動の周知」の肯定率 80%以上の維持。〔84%〕 ・自己診断（教職員）「事故、災害等に適切な対処ができる役割分担の明確化」85%以上〔79%〕 ･E メッセージ登録 90%以上の維持〔98.4%〕 ウ・校内研修２回以上〔３回〕 （2） ア・学年主任間会議で検証 イ・自己診断（教職員）「学校運営に教職員の意見が反映」75%以上〔69%〕 ・自己診断（教職員）「各種会議は教職員の意思疎通や意見交換の場として有効に機能」肯定 75%以上〔69%〕 ウ・センター研修との連携による研究授業と協議の実施 ・自己診断（教職員）「人権意識を高める指導を行っている」85%以上〔82%〕 ・自己診断（生徒）「学校はいじめに真剣に対応」80%以上〔78%〕 ・経験の少ない教職員の育成 85%以上の維持〔85%〕 エ・学校休業日（夏・冬期）、定時退庁日とクラブ休業日 104 日の完全実施 ・自己診断（教職員）「気軽に相談できる人間関係」95%以上の維持〔97%〕 （3） ア・SNS、校長ブログでの発信を合わせて 500 回以上〔398 回〕 ・自己診断（生徒・保護者）「学校 HP をよく見る」50%以上〔生 46%　保 46%〕 イ・中学校出前授業の１回実施〔１回〕 ・多彩な学校交流３件以上〔７件〕 ・学校説明会アンケート参加中学生の肯定意見 90%以上〔88.3%〕	